がん医療フォーラム仙台2015「がん患者と家族の療養を考える」　2015/11/8

「臨床宗教師の取り組み-理念と現状」

東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄付講座
高橋 原（httt@y7.dion.ne.jp）

1．臨床宗教師 ＝ 公共空間で心のケアを行うことができる宗教的専門職（日本型チャプレン）

緩和ケアの文脈

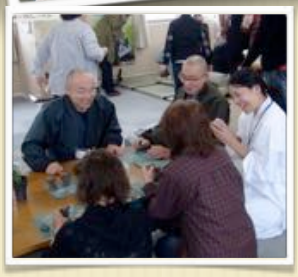
「戦後の日本では、宗教や死生観について語り、この暗闇に降りていく道しるべを示すことのできる専門家が死の現場からいなくなってしまいました。人が死に向かい合う現場に医療者とチームを組んで入れる、日本人の宗教性にふさわしい日本型チャプレンのような宗教者が必要であろうと考えてきました。」
（岡部健）

東日本大震災の文脈

「災害の避難所や病院、福祉施設などの公共空間で、人々の苦悩や悲嘆に向き合い、可能な限り宗教的ケアを施す宗教者です。宗教的ケアの定義は難しいですが、宗教者としての体験、祈りや儀式を通して心のケアをするということです。最も大切なのが『傾聴』です。」
（臨床宗教師という仕事 僧侶・臨床宗教師、金田諦應さん　朝日新聞 2015.4.22）

僧侶による傾聴
（カフェ・デ・モンク）

2．臨床宗教師研修



研修の目的

①「傾聴」と「スピリチュアルケア*」の能力向上
　*対象者の価値観、信仰心を大切にして接するケア
②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上
③ 宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ
④ 幅広い「宗教的ケア」の提供方法を学ぶ

3. 臨床宗教師の役割　病院で　在宅医療で　福祉施設で

★「傾聴」～セルフケアのサポート（患者さん、家族、スタッフの）
「物語」を紡ぐことを手伝い、「和解」を支える。
「死生観」を支える。時にはヒントも提示する。

> 「死に至るまでの間というのは最後の和解の場所なんですよ―謝ることができる場所、感謝することができる場所、人生を思い返してみられる場所―。いろんなことがあったけれども、ああ家族として、この人がいた。」（井形英絵牧師）『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第１号

宗教的ケア（〔求めがあれば〕祈り、儀礼、法話、経典等の紹介）

グリーフケア
　死別後の支え～宗教がもともと担ってきたもの（法事、先祖祭祀など）
葬儀やお墓など、儀礼についての情報提供

社会資源としての宗教者を活用する
- **宗教者でなくてもできる**
- **宗教者にしかできない**
- **宗教だからやる**

臨床宗教師研修 2012 - 2015
修了者:のべ114人
年齢:22-72歳(平均45歳)
有給雇用者：11名
実習受け入れ先：長岡西病院、上尾中央総合病院、松阪市民病院、佼成病院、岡部医院、沼口医院、小笠原医院、等